

2024年1月16日

代表発表者：こころのホスピタル町田 地域医療部長 山形弘隆

【発表のポイント】

- ・看護師と医師のせん妄負担度をアンケート調査したところ、せん妄に対する負担度が大きい人は燃え尽き症候群の度合いが大きいことが分かりました。
- ・せん妄の知識に自信がある人は、せん妄に対して行う対処行動も多いことが分かり、せん妄教育の重要性が示唆されました。
- ・看護師のせん妄負担度は医師よりも高いことが分かりました。

キーワード：せん妄、メンタルヘルス、燃え尽き症候群、リエゾン精神医療

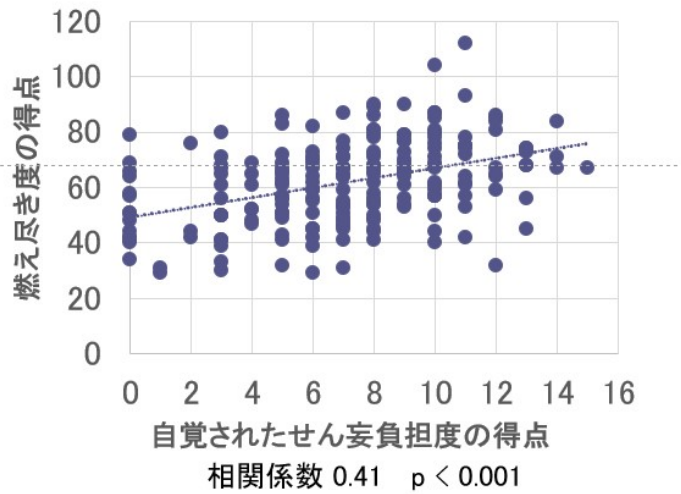
【概要】

こころのホスピタル町田の山形弘隆地域医療部長、海老名総合病院の滝原崇久副院長、小林理恵子看護師、広瀬病院の廣瀬憲一理事長らは、看護師と医師のせん妄（注1）負担度をアンケート調査し、せん妄に対する自覚的な負担度が大きい人は、燃え尽き症候群の度合いが大きいことを明らかにしました（下図）。

本研究は、看護師155名・医師53名が参加したアンケート調査です。せん妄の自覚的な負担度について質問票を作成して得点化したところ、せん妄患者を看護する頻度が高く、日常業務に時間を割けないと感じることが、医療スタッフの燃え尽き症候群に大きく影響する可能性が示されました。せん妄の知識に自信がある人ほど、せん妄に対して行う対処行動が多いことが分かり、せん妄教育の重要性が示唆されました。医師と看護師の比較では、看護師のせん妄負担度は医師よりも高いことが分かりました。

本研究の成果は、一般病院に勤務する医療スタッフのメンタルヘルス向上のために、精神科医が病棟に訪問して患者や医療スタッフの相談を行うリエゾン精神医療（注2）のさらなる推進と、医療スタッフに対するせん妄教育が重要であることを示唆しています。医療機関から気軽に一般病院連携精神医学専門医（略称：精神科リエゾン専門医）（注3）にコンサルト出来る体制を作るなど、せん妄対策を充実させるための参考になることが期待されます。本研究は2024年1月4日、エルゼビア社が発行するGeneral Hospital Psychiatryの電子版に掲載されました。

★自覚されたせん妄負担度と燃え尽き度の相関



【研究に至った背景】

せん妄は様々な精神症状を伴う軽度から中等度の意識障害であり、症状が他の精神疾患と重複しているため、経験豊富な精神科医がせん妄のサポートを行うリエゾン精神医学が重要です。しかし、日本の総合病院の75%は精神科が無く、多くの病院のスタッフが精神科医に適切な相談を行うのに苦労しています。夕方から夜間にかけての興奮や徘徊は、せん妄患者にしばしばみられ、医師や看護師に大きな負担となることが予想されます。しかし、せん妄患者をケアする医療スタッフの負担度については、ほとんど調査が行われていませんでした。そこで本研究では、看護師と医師のせん妄負担度について調査しました。

【用語解説】

- (注1) せん妄：幻覚、妄想、興奮などの様々な精神症状を伴う軽度から中等度の意識障害で、高齢者によくみられます。入院患者の死亡率の上昇や入院期間の長期化、危険行動による事故などとの関連が指摘されています。
- (注2) リエゾン精神医療：“リエゾン”とはフランス語で「連携・橋渡し」を意味する言葉です。身体疾患で入院中の患者が何らかの精神心理面の問題を抱えた場合に、精神科医が担当各科の医師や看護師と「連携」しながら支援を行うことを指します。
- (注3) 一般病院連携精神医学専門医（略称：精神科リエゾン専門医）：主に総合病院で行われる医療において、全ての診療科や多職種チームと連携して精神医療を提供し、医療やケアの改善を図る精神科医のことです。精神科専門医のサブスペシ

ャリテイとして認められています。

【原論文情報】

論文名：Burnout and Perceived Burden Levels Related to Delirium in Physicians and Nurses

著者：Hiroataka Yamagata, Takahisa Takihara, Rieko Kobayashi, Kenichi Hirose, Kuniko Higuchi, Maki Miyahara, Daisuke Komatsu

掲載誌：General Hospital Psychiatry

DOI: <https://doi.org/10.1016/j.genhosppsy.2023.12.010>

【お問い合わせ先】

こころのホスピタル町田 経営企画室

電話 042-797-0957 FAX 042-797-0126